



外国出張報告書

平成 26 年 6 月 25 日

1. 出張国名 パラグアイ
2. 出張月 平成 26 年 5～6 月
3. 出張目的 植林の促進、プロジェクト設計書等策定のための調査（樹木ベースライン調査等）、試験ほ場での各種試験（植林、牧草、土壌）の継続：A
4. 成果の概要

平成 26 年 6 月時点の植林面積等は、27 農家グループ、344 農家、477.9ha (367 区画)となっている。今年度の苗木生産はこれまでに約 22 万本で、播種、育苗作業は順調に進捗しているが、雨が多いため土地の準備が出来ず、農家の植林活動は遅れている。また、展示ほ場および植林地において樹木の成長が抑制される、あるいは枯死に至るユーカリタマバチ (学名: *Leptocybe invasa*) による害虫被害が確認されたため、今後、対策を講じる必要がある。

CDM プロジェクト設計書の策定のため、樹木ベースライン調査をカアグアス大学生産学部と、リーケージ調査を農牧省農業普及局 (DEAG) オビエド事務所と開始した。ARP 展示ほ場での各種試験として地下水位、土壌水分計の計測を継続した。また、展示ほ場においてユーカリタマバチの被害状況を確認したところ、*E.camaldulensis* の 23%、*E.hybrid*(*E.grandis*×*E.camaldulensis*)の 8%の植栽木で寄生が確認された。